



KYOTO
COLLEGE OF NURSING

授業概要 (3年次)

目次

ケアリングコミュニケーション	1
看護リフレクション	2
在宅支援論実習	3
高齢者支援論実習	3
母性看護学実習	3
小児看護学実習	4
急性期・周術期看護論実習	4
生活行動回復看護論実習	4
セルフケア支援論実習	5
緩和ケア論実習	5
精神看護学実習	5

授業科目	ケアリングコミュニケーション	時間割コード		30110	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	1 (30)	必修	3 前(集中)
担当教員	井上 深幸				
授業目的・目標	<p>【目的】 3回生前期までの臨地実習体験をもとに自らのコミュニケーションを振り返り、看護の対象となる人々との援助的関係を構築するケアリングコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>【目標】 1) 臨地実習の経験を振り返り、患者とのコミュニケーション場면을再構成できる。 2) 患者とのコミュニケーション場面の相互作用について分析できる。 3) ケアリングコミュニケーションのあり方について理解を深め、後期の実習に活かす具体的 方略を見出すことができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 ケアリングの理論を踏まえ、臨地実習での体験をもとに自己のコミュニケーションの振り返りを行いながら、自己のコミュニケーションとケアリングの関係について考え、気づく過程を経て、看護におけるケアリングコミュニケーションをグループで開発し、役割演技法を用いて発表する。</p> <p>【授業計画】 第1講:保健医療におけるケアリングの重要性 第2講:ケアリングの理論(先行研究) 第3講:モンゴメリーのケアリングの理論-資質 第4講:モンゴメリーのケアリングの理論-関係のあり方 第5講:モンゴメリーのケアリングの理論-環境との関係 第6講:モンゴメリーのケアリングの理論-専門家のかかわりの特徴 第7講:モンゴメリーのケアリングの理論-ケアリングの効果 第8講:ケアリングの情緒的危険性 第9講:看護の実践とケアリング 第10・11・12講:グループワーク~ケアリングコミュニケーションの再構成 第13・14講:「ケアリングコミュニケーション」についての発表 第15講:まとめ~看護におけるケアリングコミュニケーション</p>				
使用テキスト	キャロル・レツパネン・モンゴメリー 訳)神郡 博他(1995)『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院.				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	参加30% レポート70%				
学生へのメッセージ	「あなたの臨地実習での経験」という宝物を、後期の実習に活かす探究をワクワク進めましょう！				

授業科目	看護リフレクション	時間割コード		30202	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	1 (30)	必修	3 前(集中)
担当教員	鯉坂 由紀 ・ 中川 晶				
授業目的・目標	<p>【目的】 体験を意識的に振り返り、看護学の視点から意味づけていく内的な過程であるリフレクションについて学ぶ。</p> <p>【目標】 1) 語ることの意味を理解することができる。 2) 前期の実習体験を振り返り、看護におけるリフレクションの目的・意義を自分の言葉で述べるすることができる。 3) グループでのリフレクション及び発表会を通して、実習での学びを深めるとともに、自身の課題を明確にすることができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 体験を意識的に振り返り、看護学の視点から意味づけていく内的な過程であるリフレクションの力の修得を目指す。前期の実習体験をもとに、学生及び教員とともにグループでリフレクションを行う。</p> <p>【授業計画】 第1講: ナラティブとは 第2講: リフレクションの背景・看護におけるリフレクションの目的・意義 第3講: リフレクションと看護教育 第4講: リフレクションの方法 第5講: 個人でのリフレクション① 第6講: リフレクションの方法 第7講: 対話的リフレクション・コーチングスキル 第8講: グループでのリフレクション① 第9講: グループでのリフレクション② 第10講: リフレクションのアウトカム 第11講: 個人でのリフレクション② 第12講: 発表会準備 第13講: 発表会 第14講: 発表会 第15講: まとめ</p>				
使用テキスト	適宜、紹介する。				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	レポート80%、ワーク・発表会への取り組み20%				
学生へのメッセージ	ナラティブとはどのような意味があるのか、また、リフレクションの目的・意義・方法を学び、後期の実習につなげましょう。				

授業科目	在宅支援論実習	時間割コード		39903	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	山岸 千恵 ・ 武田 未央 ・ 内貴 千里				
授業概要	地域で暮らす高齢者が希望する生活を自立(自律)して送れるよう、福祉・保健・医療の専門職チームで行われる総合的かつ継続的な支援体制を学ぶ。在宅で療養する全ての年齢層の人々と家族の意思決定を尊重し、多様性と個別性を重視した看護の機能と役割を学ぶ。				

授業科目	高齢者支援論実習	時間割コード		39904	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	3 (135)	必修	3通年
担当教員	井上 深幸 ・ 前原 なおみ ・ 三浦 ふたば				
授業概要	病院実習では、高齢者総合機能評価の観点から発達課題、加齢による諸機能の変化、健康障害、生活機能、および心理社会面を統合してとらえ、高齢者の特性を踏まえた看護過程を展開する。施設実習では、特に認知症や嚥下障害などをはじめとする複雑な健康問題を持つ高齢者を対象に、介護と看護の協働による日常生活への援助やコミュニケーションをとおして、生活を支えQOLを高める看護ができる能力を養う。				

授業科目	母性看護学実習	時間割コード		39905	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	千葉 陽子 ・ 林 里沙子				
授業概要	マタニティサイクルにある女性および新生児とその家族の特徴を身体・心理・社会的側面から理解し、ウェルネスの視点でアセスメントを行い、必要な看護を実践できる能力を養う。具体的には、褥婦と新生児を一組として受け持ち、健康上の課題や母子関係の成立状況を踏まえて看護過程を展開する。また、妊娠期・分娩期の看護に参加したり、新生児集中治療室での看護や各種健康教育を見学したりすることを通して、周産期にある様々な対象と家族を支援するための具体的方法について学ぶ。				

授業科目	小児看護学実習	時間割コード		39906	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	小島 賢子 ・ 岩佐 有子				
授業概要	臨床現場のダイナミクスを体験しながら、対象(患児及びその家族)の健康上の問題を総合的にとらえ、対象に適した看護活動の実践について学ぶ。具体的には、子どもとその家族と援助的関係をつちかい、子どもの成長発達、疾病や障がい、QOL、個性などを統合的に理解してアセスメントし、子どもと家族を尊重しつつその子どもに合った支援を創出し実践を試みる。平行して入院中の生活援助と看護に必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。				

授業科目	急性期・周術期看護論実習	時間割コード		39907	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	田口豊恵 ・ 田村葉子				
授業概要	急性期・周術期看護論実習では、急性期における患者の特徴を理解し、生命維持、身体的苦痛を取り除き、健康回復への援助を行う。主に手術療法を受ける患者の手術前・手術中・手術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズを考慮に入れた看護過程の展開の実際について学ぶと共に、手術療法を受ける患者の心理面を理解し、患者及び家族への共感的態度を養う。				

授業科目	生活行動回復看護論実習	時間割コード		39908	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	福田 里砂 ・ 宇多 雅				
授業概要	疾病・障害・加齢などによる生活上の問題を有し、さまざまな機能障害を伴う患者に対し、日常生活行動の自立と社会復帰やQOLの向上を支援するための看護を実践する。また、医療チームと家族の連携や社会資源の活用について学び、看護の視点を考察する。				

授業科目	セルフケア支援論実習	時間割コード		39909	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	中島優子 ・ 中森美季 ・ 今堀智恵子				
授業概要	慢性疾患をもって生きる患者の健康上の諸問題を総合的に把握し、療養行動の維持およびQOL向上に向けての看護の実際を学ぶ。具体的には、患者との関わりを通して、成人期の慢性疾患患者や家族の状況をアセスメントし看護過程を実践する。成人期の慢性疾患患者の生活やセルフケア能力に焦点をおき、健康教育の必要性や援助方法について学ぶ。また患者・家族が健康障害に伴う生活上の制約を受容し、療養行動を維持していくための看護援助を経験し看護技術を修得する。				

授業科目	緩和ケア論実習	時間割コード		39910	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	1 (45)	必修	3後期
担当教員	中島優子 ・ 中森美季 ・ 今堀智恵子				
授業概要	がんと共に生きる人とのかかわりを通して、全人的な痛みについて理解し、全人的なケア・家族ケア・多職種によるチーム医療の重要性を看護の視点から学ぶ。具体的には、患者・家族の希望を尊重しながら苦痛緩和に向けて必要な看護援助を看護師の援助に同伴し、学生は患者・家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな状況のアセスメントを行う。その上で、実施される援助の意味や工夫を学ぶ。				

授業科目	精神看護学実習	時間割コード		39911	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2 (90)	必修	3通年
担当教員	山本明弘 ・ 高橋康子 ・ 三林聖司				
授業概要	心を病む人とのかかわりを通して、精神の健康および精神の障がいを理解し、対象の生活の場に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。具体的には心を病む人とのかかわりを通してその全体像を理解し、適切な支援的関係を築くなかで回復への看護実践について学ぶ。さらにその家族や取り巻く社会の状況についての理解を試みるとともに、精神科領域に関わる多様な組織や他職種との連携についても学び、包括的なケア体制づくりの重要性について理解する。				